

動労千葉の底力を発揮した1月総決起行動

日刊
動労千葉

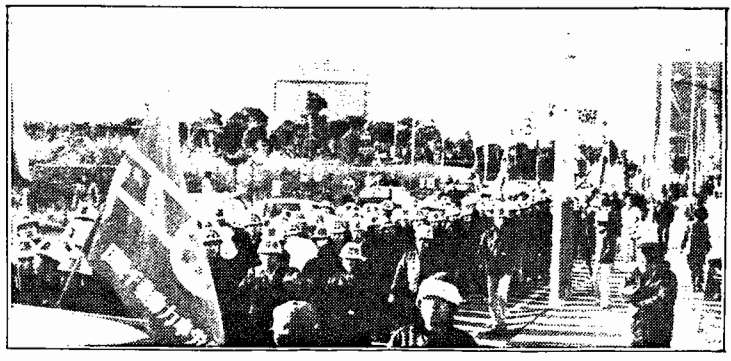
81.2.6
No. 651

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四五三二七二〇七

追撃の手をゆるめず 極小「本部」派を解体せよ!

動労千葉の底力を限りなく発揮した一月総決起行動は、動労「本部」反動分子による銚子支部デッチ上げを策した反動労千葉デマキャンペーンをことごとく粉碎しきり、ジェット延長阻止一・二四総決起集会(三四〇〇名結集)、一・二五全国労働者集会の圧倒的成功と結合し、一・二七銚子臨大「業務再開」否決、一・三〇「再建地本大会」デッチ上げ粉碎の連続的勝利をかちとった。この勝利は労働運動の右翼的再編一産業報国会化への流れを断ち「三月ジェット決戦を労働者階級の責務にかけて闘い前進しようとする者」が誰であり、「これを権力・当局の側に立って敵対・妨害する者」が誰なのか、を鮮明につきだしたのである。

一・三〇千葉県労働者福祉センターでの「再建大会」が粉碎されるや、破産のとりつくりのために慌てふためいて「地本再建勝利報告集会」と看板を張りかえ、三信ビル(動労千葉事務所)で「『大会』圧倒的成功」等と空虚に報告しても、すればするほどデッチ上げと反動性を自己暴露するにすぎないのだ。あくまで「本部」反動分子と結託し「『千葉地本再建』をした」等と土屋粹、革マルスパイ分子嶋田誠らがのたまひ、わが動労千葉に敵対を繰り返すならば、容赦することなく糾弾し過ちを糾してやらねばならない。



1・30「地本再建」デッチ上げ粉砕闘争に決起した動労千葉青年部

勝利の突破口をきりひらいた 銚子支部の仲間決起と英断

「本部」反動分子が銚子を見捨て、「業務再開」が満場一致で否決された責任を銚子執行部になすりつけ足ゲにして「再建地本大会」デッチ上げを画策したなか彼等の利用主義、セクト的組合ひきまわしの破産をみてとることが出来る。

同時にそれは、一月二七日銚子支部の全ての仲間が苦しみ悩み抜いた上で確信をもってきっぱりと下したあの英断一すなわち「業務再開」反対「動労「本部」にはつかない、正しい路線のもとに銚子は団結・結集しよう」という一・二七銚子支部臨大の満場一致決定の正しさを証明するものとしてかちとられたことをはっきりと確認できる。

一月総決起の勝利をバネに 極小「本部」派解体へ

一月総決起勝利の核心は、動労千葉結成の原点に踏まえ、いまや労働組合ならざる労働組合になりさがった合理化の先兵「権力・当局の武装親衛

隊・「本部」反動分子を動労から一掃する闘いとして全組合員が総決起したことである。二年間にわたって4・17、4・15津田沼襲撃をはじめ全支部に対して、権力・当局と一体となって暴力的組織破壊襲撃を行い、あまつさえ布施組織部長への解雇処分を当局に要請するという極反動攻撃を行った「本部」反動分子とその手先を断じて許さぬという怒りの決起によってである。

まさにそれは、三月ジェット闘争を労農連帯の更なる前進と「本部」反動分子追放・動労大改革一日本労働運動の戦闘的転換をかけて闘う動労千葉の路線的正義性によってかちとられたのである。路線的正義性も確信もない「本部」反動分子は「再建大会」の破産をとりつくりうろたえ、「再建地本大会成功」等と空虚に叫び、動労千葉破壊一八・三闘争つぶしのために、なんの展望もなく危機にかられて凶暴化してきている。

われわれは、一時も気を許さず「本部」反動分子とその手先となった極小「本部」派を徹底糾弾し解体しよう。八・一・三へむかって全国の闘う仲間と共に前進しよう。